

創造性と鑑賞性(一)

倉橋惣三

輓近の教育問題の中で、創造と云ふことが大きな一つの問題になつて居ると云ふことは多く申上ける必要もないことであると思ひます。生活形式として自發と云ふことを主にしまして、そして或は自發主義或は自動主義と云ふやうな教育説が出て来ますのは、生活態度から見ますと云ふと、つまり一つの創造生活を營ませると云ふ所に價值をおいて居ると見ることが出来ます。心理學的に見れば自發とか自動とか云ふ言葉が出来て参りませうが、之を人格的或は人間生體の生活として考へて見れば、即ち創造と云ふことになつて來るのであります。其創造と云ふことは、二種の生活態度に對して反対のものとして考へられる。一つは所謂模倣的生活の反対として考へられますし、もう一つは習慣的生活或は慣習的生活の反対のものとして考へられる。模倣と云ふことが、何であるかと云ふことは、云ふまでもなく明かなことではありますが、習慣と云ふのは何であらう。色々の解釋が習慣と云ふことに試みられるのであります。全く機械的に習慣と云ふものを説明しますならば、繰返して居ると云ふことから出來て來る一つの型である。といはれる、ところで其繰返しから生ずる一つの型と云ふものは、習慣が出來て來る法則を見たものであつて、其意味に於ては、人間ばかりでなく他の生物にも勿論之れがありますし、又生物ばかりでなく時には無機物にさへも其同じ法則に依る現象と云ふものが考へられる。能く心理學の本に習慣と云ふものは靴にも附くし、帽子にも附くと云ふやうなことを云ふのはそれでありませう。併し其説明は

習慣が出来て来る法則を説明したものでありまして、人格的活動の態度として説いて居るのではない。私達は、人格的活動の態度として習慣が何であるかを見なければならない。それは模倣と云ふことに付ては、其説明をする場合に、人格的活動の態度としてものを見て居るからです。即ち或る手本となります所のものに對して、自分の人格が其儘惹き着けられて行く所の生活態度、即ち自分の方がものを率いて行く生活ぢやなくて、自分の方の生活が他のものに引張られて行く所の其生活態度を模倣と云つて居るのであります。すなはち、此意味に於て定義されて居ります模倣と云ふものは、模倣の出來て来る心理法則を説明して居るのではなく、模倣と云ふことをして居る時の人格活動の態度を示して居るのです。

すなはち、從來の心理學に於ては、何故模倣と云ふことが出來て来るかと云ふ其法則の説明はしませぬで、模倣するものとされるものとの人格的關係、其態度の關係を主として模倣と云ふとこを考へて居る。模倣の一種と見て宜い所の暗示と云ふやうな問題に付きましては殊にさうであります。何故私が他の人に依つて暗示せられるかと云ふやうなことの其法則の説明は甚だ好く分らない其時に私の人格が人格活動が、暗示者の人格活動に追従して行く。さう云ふ時に之を模倣、或是暗示と名付ける、斯う云ふ風な云ひ方をして居ります。

そこで模倣に付いて考へた處の人格活動の態度に付いての説明を、習慣と云ふことに付いて試みることは出来ないかと思ふ。普通に所謂模倣と云ふことは自己以外のものに對しまして、それに追従して行く態度であります。それに對して、習慣と云ふものは、前の瞬間或は過去に於ていたしました自分と云ふものの人格活動に對する模倣である。ところで若しさう云ふ解釋の仕方が餘り多くの間違ひがないとすれば習慣と模倣と云ふことは人格活動の態度としては要するに同じことであ

ります。只自分以外のものに其態度を示して居るが、自分自身に其態度を示して居るか、其違ひだけに歸着すると思ふのであります。

常に自分以外のものを模倣するに急なる者は、忙がしき者は、自分を模倣する暇がありませぬからして、習慣を作りませぬ。自分に模倣するに忙がしいもの、或は、其自己模倣の態度がし易くなつて居る者は、或は既に其結果として一つの態度の型が出来て居る者は、他のものを模倣すると云ふことがなくなつて来る。問題は同じ模倣を外に向けるか、内に向けるかと云ふことであらうと思ひます。内に向けました模倣の場合に於ては、現在の活動して居る人格も、其手本となつて居る所のものも同じ自分でありますからして、此處に絶対に保守的な態度が起つて来ませう。昨日の我に倣つてする今日の生活は變化も進歩もないものであります。又明日も今日の我に倣つてする生活でありますたら、變化のないものであります。併しながら外に對して模倣して居る時には、外のものに對しては變化して居りませぬが、其當人に取つては其模倣するものの手本の違ひと同時に自分も變化して来るし、若し幸にして模倣して居る所の手本が進歩的な順序に並べられて居るものであるならば、それに連添ふて自分と云ふものも進歩して行く譯です。習慣の如く絶対に保守的なものではない。さう云ふことも云はれると思ふのであります。とにかく、絶対に保守性を持つて居ります所の習慣態度と云ふやうなものと違つたものであることは明らかのことであります。模倣の場合に於きましては、自分の中から作り出した創造ではないか知れませぬけれども、併も其手本の變化、殊にそれが進歩的な順序に置かれた場合に於ては、自分に取つては新しい生活へ移つて行くのである。それが本當の純粹の創造と云ふものあるかどうかは別問題として、兎に角習慣に比しましては進歩性を持つて居りますし、變化性を持つて居るし、外から見れば日に々新しい生活を創造して居るかの如く見られ得る餘地のあるものであります。

そこで考へなければならぬ問題としては、習慣の方は消えて仕舞つて、所謂普通の模倣と創造との關係を見れば宜いこ

となる。さて、我々の總ての生活と云ふものは、材料、次に材料の結合、それから出來たものの表出と此三つの順序を取つて行くものであります、此中から模倣と云ふことに無關係な、言換れば其原因を自分以外のものに持つことなくして生活出來るものは材料の方ぢやなく、材料の結合の方であると云ふことは明らかであります。我々が心の中に持つてをります所の、或は知覺でありましても、觀念でありましても、或は概念となつて居る所のものであつても、兎に角是は自分が作り出すと云ふことの絶對に出來ないものであつてあつて、外から取つて來たものであります、取つて來るには或る種の外界に追従する所の人格活動をしたこと示して居るのであります、材料の場合に於ては人格活動全體と云ふものに居らないで、人格活動の部分に關するものでありますからして、模倣と云はずして、此時は學習と云ふ言葉を使ひます、其材料を結合する仕方も亦模倣に依つて結合することが出来る、併しながら、此結合の仕方だけには必ずしも模倣に依らない結合が出來るとも見られるのであります、勿論普通の場合に於きましては、自分では模倣した積りでなくとも、要するに何かに倣つて、其材料を結合して居るに過ぎないといふ様な場合があるのであります、併し或る特別な非常に創造性に富んだ所の人、或は私と雖もどうかして或る特別に創造的な生活態度になつて居る時には、是が從來の形と違つた結び方をすると云ふことは出來るものと見て置かなければなりません。

何かに依つて其材料の結合が自分獨特のものが出來る、是が所謂製作の心理、或は創造の心理の問題に觸れて來る譯で普通の心理學的な言葉を使ふとすれば、此處に想像と云ふ説明語が持つて來られます。但し、目的活動の思考の如きものと違つて居ると云ふ點は、思考生活と云ふものは絶對に一般法則に従つて居るものであります、想像だけは、其人の個性に依つて違ひ得るものである、其個性に依つて違ひ得る想像、それに依つて個性に應じた結合の仕方をしたと云ふ時に此創造と云ふものが出來るのであります、併し自分の個性に應じて、或るものが出來たと云ふこと、之を外に表出すると云ふことは、明らかに別の問題として考へなければなりません。表出の場合には二つの問題が起るのであります、が

一つは結合に依つて出来ました所のものに當然に相應する所の表出と云ふものがあると云ふ考へである。A的の結合の仕方に對しては、當然にA的の表出の方法が相應するB式の結合の方法に對しては當然にB式の表出云ふものが、相應して来る、言換れば表出は、結合の結果に依つて出来たものの、其性質に依つて定つて來るのであつて、表出それ自身に獨立の變化性と云ふものはない、斯う云ふ風に考へることであります。是は極く極端な場合として論すれば、相當に議論が出来せぬが、極めて一般的な大體的な考へ方として、はさう云ふことも云ひ得る例へば童謡と云ふものが、我々の心の中に材料は同じ赤い夕日であり、或は山の御猿であり、或は一つ橋であり、落ちる木の葉であり、別に變つたものであります。が、或る結合の形式に對して童謡と云ふものが出來た時には、其童謡が持つて居る或るものに相應したリズム、音律と云ふものが出來て來て、其内容から當然出て來た所の童謡の音律と云ふものが、考へられます、其場合は童謡は和歌の形式に依る表式には當然漏れないにしても、あの表出の仕方と云ふものに行く、尚ほ細かに云へば、其同じ趣意ことに音律と云ふものも、童謡の内容の所謂結合の仕方、色々の材料の仕方が變つて来れば變つて來るだけ、北原君は北原君形式を取りませう、西條君は西條君の形式を取りませう、其意味に於ては表出する内容に相應する、ものであつて、別に獨自性を持つて居るものでないと云ふことが大體云へます。

所謂又別の方から考へて見ますと、表出と云ふものを其内容から切り離して、表出それ自身としての工夫とか、新しい形式とかと云ふやうなものを考へることも出来るし、それを作り出さうと試ることも有り得ることであります、それが何處まで内容と獨立に行はれるものであるかどうかと云ふことは色々議論があるやうであります、けれども實際に於て同じ内容を違つた形式に置換へて見やうと云ふ試みは出来ると思ひます、所謂表出の技術の問題として、技巧の問題として取扱はれた表出はさう云ふものであります、當然の表出として、新しい酒は新しき入れ物を要求すべき筈でありますけれども、時には古き草薙にも入れられると云ふ其表出が内容と離れた取扱をされるものであるとするならば、技巧としては

此處に又別な問題が出て来る。其技巧として、表出に付いて、表出それ自身として自由なことをなし得る時に、是がもう一度、其時に表出それ自身として或る模倣をすることもありませう、或は自己模倣をすることもありませう。或は此模倣を破つた新しい試みをしやうと云ふこともありませう、其内容と表出の關係の事實は此處で申上げやうと思つて居ないとであります、斯う云ふ御話をした所以は、所謂創造と云ふ生活の中に内容に關する創造と表出に關する創造と二つの方面がある、實際はそれが極めて密接な關係を持つて居て、切離せないものと思はれます、テクニツクとして片方を見る場合には二つに分けられるのであります。我々が子供の創造性を尊重しまして、其創造性に向つての教育をして居る時に、内容の方に對する創造性の教育をして居るか、表出の形式に關する創造性の教育をして居るか、兩方をして居るか、内容の創造を養ふことに依つて表出の創造を生出すやうにして居るか、書出の創造を教へることに依つて内容の創造を促して居るか、此二つの場合と云ふものが判然分けて考へなければならぬと思ふのであります。

一體創造と云ふものは模倣と云ふことの反対として考へらるべきものである、所が從來の教育と云ふものが、所謂學習本位であります、此處で云ふ學習と云ふことは教授法の原則としてこの學習と云ふ意味でなく、教育全體の可能性の考察に於ける學習と云ふ意味であります、其意味に於て所謂模倣と云ふことは教育の作用の可能性に於て全體として非常に大きな位地を占めて居つた、千何百年に近く我々の教育はさう云ふ考を以て支配されて居りました、之に對して其模倣或は自己模倣たる習慣を破つて、オリジナリティの力を認めて來たのが詰り今日の創造主義教育論であります、創造主義教育は兒童をして生出させる生活であると云ひますが、何處を指して生出すると云ふことで出来るか、勿論其人格の上の人者に只盲目的に追従つて居ると云ふ生活ぢやないと云ふ消極的な特色は持つて居りますが、一般に進んで生出すると云ふそれは何處を見て云つて居るか、其問題を今申上げました五つのことに一々當嵌めて縋密に考へる必要があると私は思ふのであります、其五つのことに當嵌めて一々考へることは、亦若し御興味がありましたならば、諸君に御任せいたして置き

ます。

けれども、其考へ方の綿密でない爲に生出させると稱して、實は何物をも生出させて居ない創造と云ふものがあると云ふことだけを考へて見たいと思ひます。即ち模倣の習慣、それらの場合を破つて居ると云ふことが創造ではない、創造はそんな消極的な意義を以て定義されるものでありまして、そこは積極的に生出すと云ふ大きなものである、併しながら、若し型に従つてない、何物をも手本にして居ない云ふことだけを以て、此兒童のやつて居りますものを創造と見るならば是は甚だ不精密なものであると云ふことが云へると思ふ、創造は其結合する所に、或はそれに相當したる表出を取る所に或は獨立の表出するそれ自身としての新しき形を取る所に、其子供の個性に密接に關係して居るものがなければ、創造と云ふことは出來ないと私共は思ひます、一般的論理思考と云ふものに依つてやつて行くのが、創造ぢやない、イマジネーションと云ふ心理上の言葉は極めて曖昧な言葉であります、其を論理思考に非ざる一つの考、働くと云ふやうに見まして其イマジネーションに依つて或は結合が出來るとするならば、而してイマジネーションと論理思考の違ひは普遍性を持つて居る論理思考に對して、他は何處までも個性的なものであると云ふことに歸着する、とすれば、其結合が其子供の個性と云ふものと密接な關係を持つて居なくてはなりません、若し個性と無關係な偶然的結合、或は偶然的表出形式、さう云ふ風な偶然性と云ふものが非常に勝つて居るものであります、模倣を破つて居ると云ふことに於ては、新しきなものであります。新しき生活であります、創造と云ふことの、本當の絶對性を持つて居るものぢやないと云ふことが出来ると思ひます。子供が描きます所の自由畫と云ふものは、或は子供の歌ひ出します所の自由童謡と云ふものは、成る程一人一人色々のを作ります、併しながらそれが盡く模倣或は自己模倣を破つて居ることもあります、けれども悉く其個性と密接な關係を以て產出されて居ると云ふ風のものでない場合が澤山にあらうと思ひます、實に此偶然的な、謂ばは思ひ附きと云つたやうな、さう云ふ場合に依つて出來て居るものが可成りあると思ふ、是は其模倣と云ふことを破つて居ると

云ふ點に於ては創造的な作品の生活に這入り得るものであらうと思ひますけれども、其子供が本當に個性に相當した新しいものを産み出して居ると云ふ意味に於ては、未だ本當の創造と言ふことは出来ないと思ふ。個性に相當せざる、而かも自己でも、所謂模倣でもない生活と云ふものを、精神薄弱なる者、或は精神病的なる者が可成り營むのであります。所謂人格的統一と云ふものが無くなつて仕舞つて、唯、離散したる、離れ離れの觀念や、知覺や、曠ろ氣な概念と云ふものゝ集合に過ぎないやうな精神衰弱者、或は白痴、或は精神病者と云ふやうな者に於ても、それが模倣でなし、習慣でもないと云ふやうな意味に於ての創造らしきものは可成り營まれるのであります。併しそれは言ふまでもなく創造ぢやない、何所が創造でないかと云へば、其子供に必然性的の關係を持つて居ないからである。一般に兒童と云ふものは或る意味に於ては精神の未だ甚だ薄弱なものであります、殊に人格統一と云ふやうなことに於て甚だ薄弱なものでありますからして、其する所が餘程人格必然の結合と云ふやうな意味に於ては微力な、薄弱なものであることを免れないと思ひます。而かも兒童全體のさう云ふ種類の生活の中に、個性に結び付けて居るやうなものと、全く其偶然の概念、觀念の、或は知覺の結付きである、フワ／＼と浮き出るやうな、ものが可成り子供の中にあると思ふのであります。嚴密な意味に於てイマジネーションと云ふものゝ中に總てをオリジナリティーに見て行くと云ふことは、非常に間違ひであり、又危險なものであると思ふのであります。此所で私は斯う云ふ風なことを、——可成り飛んで仕舞つた結論であります。自分としては言つて見たい。創造教育と云ふことは模倣、或は自己模倣たる習慣を破つて、其支配を受けない生活をさせることであると云ふことが創造教育の第一歩でありませう。——ものに囚はれて居る限り個性は發揮しないのでありますから、——それは勿論必要なことではありませうけれど、併しそれは創造教育の第一歩であつて、創造教育の極致は、個性に相應する所の創造をさせると云ふ所に、即ちイマジネーションを養ふと云ふことは遠つた意味に於て、嚴格な創造教育としての目的がある、のである。ゲーテの作品は誰の型にも依らない、誰の作品の中にもない新しいものを出して居ると云ふこ

とに於て決して模倣でなし、又ゲーテ自身のあの澤山の作品が、常に第二番目の作品は第一番目の作品の型に囚はれ、第三番目の作品は第二番目の作品に囚はれるやうな自己模倣をしないと云ふ所に於ては、實に消極的な意味に於てはゲーテは創造をして居るのであります、ゲーテの作品の本當の創造……クリエーンヨンの意義と云ふものは、どの作品もゲーテの個性と云ふものとしつかり組付いて居る、個性から個性を産み出し、母から我子を産み出して来る、母から母の子を産み出して來るのではない、是等の意味に於て産み出すと云ふことは、唯ほつかりと出て來たと云ふことではないと私は思ひます。斯う云ふ意味は近來の創造と云ふことを基本觀念として考へられますが、殊に創作的方面から見た藝術論の中には、唯、兒童をしてイマジネーションの生活をさせる所だけに止つて居るものが可成り多いと云ふことを、——或は間違ひかも知れませぬが、——私は思ふのであります、それでイマジネーションと云ふことは自由に働くと云ふ意味に於ては、決してそれは無意味なものではありませぬが、それだけでクリエーションの教育が出来るものであらうと考へたならば、是は考へ方が足りないと思ふのであります、さう云ふ意味に於て創造と云ふことを極く厳密に解釋して其間違ひ易き、似て非なる想像と云ふものを斥けた譯であります、併し從來の教育が模倣と、自己模倣と、學習と云ふやうなことだけを基礎にしてやつて居つもたのに對する創造教育論と云ふもの、殊にそれが技術の創作と云ふものを教育手段として用ひて、さうして創造性を養つて行くと云ふやうなことは非常に好い、——好いどころぢやない、結構なことと思ふのであります、結構なことではありますが、併しもう一つ人間の人格活動の態度と云ふものに付て兒童生活を見て行く時に、唯創造と云ふ方面だけで止つて仕舞ふと云ふことは不十分であります。(續く)